

# NEWS

Niigata University of Health and Welfare  
Teaching Career Support Center

# LETTER

## CONTENTS

1. 巻頭言：多職種連携でコロナ禍の子どもたちを支えよう
2. 取組紹介：3学科連携演習
3. 卒業生の活躍
4. 2021年実施 教員採用試験結果/合格者へのスペシャルインタビュー
5. お知らせ/今後の予定
6. あとがき



## 多職種連携でコロナ禍の子どもたちを支えよう

教職支援センター運営委員 上田 純平 (健康スポーツ学科)



昨年以降続くCOVID-19感染拡大は、子どもたちの生活にも大きな影響を及ぼしています。学校においても臨時休校をはじめとし、修学旅行や学校行事の中止・縮小、部活動の大会の中止など子どもを取り巻く環境に変化が生じました。また、消毒などの感染防止対策、三密の回避など今なお学校に求められるものは多くあります。学校生活や家庭生活が一変したことに伴う子どもたちへの影響として、不登校や虐待の増加、ゲーム依存など多くのメンタルヘルスの問題が懸念されています。緊急事態時の子どもたちへのメンタルヘルス支援にはどのような視点が必要でしょうか。重要な点を以下に示します。

- ①TVやインターネットなどのメディアでCOVID-19関連の話題に触れる時間を大人が管理・制限する
- ②家庭では学習時間とリラックスする時間を時間割のように決め、ルーティン化する
- ③「感染」や「隔離」がテーマとなった遊びがみられても無理に止めず見守る

『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下におけるメンタルヘルス対策指針第1版』(日本精神神経学会他、2020)

①・②については、規則正しい生活の支援となります。親子のコミュニケーションの時間を増やしたり、家の中でもできる軽い運動や気分転換を通じてストレスやフラストレーションを適度に解消したりすることで、ゲームやインターネットとの距離を適度にとることも大切であるとされています。③については、子どもは遊びを通して自身の体験を表現したり、再現したりすることによって、不安や恐怖などを解消することがあります。地震などの自然災害の場合には「地震ごっこ」などの遊びがみられることもあるようです。見守る姿勢が大事ですが、過度に激しくなりすぎたり、危険があったりする場合にはそっと止めましょう。

学校では子どもたちにどのような支援ができるでしょうか。緊急事態後の教育活動について、文部科学省は以下のように示しています。

学級担任や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察やストレスチェック等により、児童生徒等の状況を的確に把握し、健康相談等の実施やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による心理面・福祉面からの支援(社会福祉サービスの提供等)など、校長のリーダーシップのもと、教員だけでなく、様々な専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整える。

ここからは、学校に関わる多くのスタッフが協働して子どもたちを支える「チーム学校」としての支援が求められていることがわかります。困難な状況にさらされた時にメンタルヘルスを保ち、回復する力を心理学ではレジリエンス(精神的回復性)と呼んでいます。学校は子どもたちがレジリエンスを身につける場として、重要な役割を果たすとの指摘もあります。

この機会に子どもたちに対して皆さんができる支援を考えてみてはどうでしょうか。

### 取組紹介

11月2日(火)3・4限に教職実践演習で3学科の連携演習を行いました。健康スポーツ学科、健康栄養学科、看護学科の4年生が学校現場で起こりそうな課題に取り組みました。

まず、ジェスチャーを使った自己紹介、単語並べ替えゲームをしてグループの親睦を深めました。次に、代表学生が学級担任・体育科教員、栄養教諭、養護教諭の役割をそれぞれ説明しました。教育実習での体験に基づいた説明は分かりやすく、さすが4年生でした。その後「小学校6年保健の授業づくり」「食物アレルギーの対応」の事例について、3職種がどのような連携で対応できるかを検討するグループワークを行い、各グループで発表しました。寸劇をするグループがあるなど、個性豊かな発表となりました。

この3学科の連携演習は、医療系総合大学である新潟医療福祉大学ならではの取り組みです。多職種が連携する場面は実際に教職に就いてから多々ありますが、それを学生時代に経験したことで、さらに皆さんの学びが深まりました。



### 卒業生の活躍

現職教員として活躍する卒業生からのメッセージです。教員を目指す皆さん、是非参考としてください。

益戸 郁実さん

(2020年度卒業生、小学校教員養成特別プログラム3期生)

所属：福島県内小学校

#### ①教師のやりがい

問題を解いたり思いっきり遊んだり、子どもたちと一緒に過ごす毎日が、本当に楽しいです。もちろん、楽しい日々だけではありません。多くの教科を担当する小学校では、毎日の授業を乗り越えるだけで精一杯です。しかし、自分のやりたい授業が形となり、子どもたちの新しい学びや「できた! わかった!」に繋がったとき、大きな達成感とやりがいを感じます。

#### ②大学時代に学んだこと・役立っていること

部活動、ゼミ活動、学生ボランティア、アルバイト等、人と関わる多くの経験は、教員にとって大切な「話を聞く力」に繋がっていると思います。当時は辛かったことも、今では自分だけではなく子どもたちの肥やしとなり、一人ひとりに寄り添う生徒指導の実現に役立っていると実感します。

#### ③大学時代にしておけばよかったこと

学級経営や授業づくりについてもっと学んでおけばよかったと後悔しました。先生方に話を聞きに行ったり、本を読んだり、少しでも情報収集しておくだけで、4月から自信を持って教壇に立つことができると思います。また、やってみたいと思うことは今、チャレンジすることをおすすめします。



## 2021年実施 教員採用試験結果

## 現役合格者9名輩出！卒業生10名合格！

今年度実施された教員採用試験において、健康栄養学科1名（栄養教諭）、健康スポーツ学科7名（中学校・高等学校保健体育教諭2名、小学校教諭5名）、看護学科1名（養護教諭）計9名の合格者を輩出いたしました。また、3学科の卒業生10名からも合格の報告が届いております。教職支援センターでは、卒業生の教採対策指導も行っています！今回合格した4名の方のスペシャルインタビューをどうぞ！

## 合格者へのスペシャルインタビュー



- ①教員を目指した理由 ②教員採用試験に向けた取り組み  
③後輩へのアドバイス



- ①昔から子どもと関わる仕事がしたいと思っていました。教育実習に行き元気いっぱいの小学生と触れ合い、この子たちの元気の源に給食があると思いました。その時私も栄養教諭になり、元気の源になるような給食を作りたいと思いました。
- ②自治体によって出題傾向や形式が異なるので、情報収集を行いながら一次試験の勉強を始めました。一次試験の勉強は特に過去問を中心に行いました。二次試験は、大学の先生方に沢山指導していただき、回数をこなすことが大切だと思いました。
- ③教員採用試験は他の一般企業の就職活動時期に比べて遅いと思います。周りが就職先を決めて、焦ったり迷ったりすると思います。自分がどうして教員を目指しているのか、やりたいことは何なのかを何度も振り返りながらモチベーションを保つことが大切だと思います。



- ①これまでの大学生活や部活動などで学んだことや、スポーツ・運動の良さ、大切さを多くの生徒に知ってもらいたいと思ったことがきっかけです。また、やりがいのある仕事にとっても魅力を感じ、その仕事を自分の故郷でしたいと思ったからです。
- ②私は4年の春まで部活動を続けていたので、少しの時間でも毎日対策に取り組みました。また、過去問を解いて傾向を知った上で出題率が高い分野や自分が苦手な部分を徹底的に勉強していました。
- ③教員採用試験の対策は、勉強すればするほど多くのことに対応、応用ができます。例えば、筆記試験の対策でも面接に活かすことができ、その後の教育現場でも大いに役立ちます。今の努力は決して無駄ではないということを心に留めて頑張ってください。



- ①小学校時代の担任の先生に憧れたことがきっかけです。私は元々消極的な性格でしたが、当時の先生のおかげで、何事にも積極的に取り組めるようになりました。その時から私も「この先生のようにになりたい！」と思うようになりました。
- ②合格のためにはまず一次試験を突破しないと行けないので、学内講座への参加や、問題集を繰り返し解く、ということを行いました。私は2年次より学内講座に参加するようになり、そこから勉強する習慣を身に付けていきました。
- ③合格のためには、自分から積極的に行動することが大切だと思います。学内講座に参加したり、分からないことは先生方に質問したりするなど、自分から積極的に学ぶ意識をもって、合格できるように頑張ってください！



- ①小学生の時にお世話になった養護教諭に憧れを持ち、養護教諭という職業に魅力を感じたことがきっかけです。そこから、高校生の時に養護教諭が保健室で対応してくれ、安心感を覚えたことから養護教諭を目指しました。
- ②一次試験は過去問を解いて、自信がないところや理解が不十分なところをノートにまとめたり学外講座を受講したりしました。二次試験は学内講座の受講や教職の先生方との面接練習で自分の考えを自分の言葉で伝える練習をしました。
- ③教職支援センターをたくさん利用してほしいと思います。とても手厚くサポートしてくれたり多くの情報を発信してくれたりします。他学科の学生さんからも良い刺激をもらえるはずですよ。くじけそうな時にも、センターに行くことで元気になりました。応援しています。



## お知らせ/今後の予定

## ▶教職担当教員による教員採用試験対策 後期学内講座

10月～2月にかけて、各種講座をオンラインで開講中です。  
後期講座は2022年度前期講座へつながっていきます。  
3年生を中心に積極的にご参加ください。1～2年生も歓迎します。

月3限：保体総合演習Ⅰ（HS学科対象）  
月4限：模擬授業&一次試験筆記試験対策  
月7限：保体総合演習Ⅱ（HS卒業生対象）  
水1限：論文演習Ⅰ  
水3限：面接演習Ⅰ  
木3限：教育課題演習Ⅰ  
金5限：栄養総合演習Ⅰ（HN学科対象）  
随時\*：養護総合演習Ⅰ（NR学科対象）※学科指定日  
\*申込制で随時受付中です。積極的にご利用ください。

## ▶東京アカデミー講師による教員採用試験対策講座

※申込は終了しました

方法：オンライン  
日程：11月22日（月）～2月22日（火）\*全10回

## ▶学内模擬試験

会場：D204  
日程：1月5日（水）東京アカデミー 第1回模試  
2月24日（木）東京アカデミー 第2回模試  
4月1日（金）東京アカデミー 第3回模試



## あとがき

教職支援センターニュースレター第9号では、子どもたちへのメンタルヘルス支援や、3学科連携演習についてご紹介しました。いずれも本学の特色でもある「多職種連携」がキーワードとなります。教職を目指す学生の皆さんには、ぜひ医療系総合大学である本学で学んだ「多職種連携」を生かし、教職の現場で活躍してほしいと思います。

2017年12月に創刊したニュースレターも、次回が記念すべき第10号となります。今後も更に、教職の魅力や本学教職支援センターの様々な取り組みをお伝えしていきますので、ご期待ください！

（事務局 菅原）



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター  
2021年12月24日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会  
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp

Web : https://www.nuhw.ac.jp/teaching\_career\_support/

Twitter : @NUHW\_kyoshoku



Web



Twitter

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索